

シラバス

科目No	SN-015 地域・在宅看護方法論Ⅲ 地域・在宅における看護過程の展開	配当時期	3年前期	講義担当者 椎葉 幸 担当者実務経験 28年
		単位数	1単位	
		時間数	30時間	
科目全体のねらい・授業目標 在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じて展開する在宅看護について基本を理解をする 1. 在宅での看護過程の考え方が理解できる 2. 訪問看護の計画立案ができる 3. 訪問時の基本的態度が習得できる 4. 対象者に応じた援助技術が習得できる				
DPとの関連 DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP4: 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 DP7: 専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	在宅療養者の看護過程の展開のポイントが理解できる 1) 情報収集の視点と方法	講義・GW		
2	2) 生活者として対象者を捉える視点とアセスメント 事例 認知症の在宅療養者への看護が理解できる 在宅継続のための健康危機管理 自立支援とQOLの維持向上のための在宅支援 家族支援			
3	3) 看護計画立案 4) 評価の基準			
4	慢性期にある療養者の看護が理解できる 1) 慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント 2) 状態に合わせた対応・調整 3) 急性増悪の早期発見と対応 4) 社会資源の活用	講義・GW		
5	回復期(リハビリテーション期)にある療養者の看護が理解できる 1) 在宅におけるリハビリテーション 2) 生活機能・日常生活活動動作(ADL)のアセスメント			
6	3) 状態に合わせた対応・調整 4) 合併症の予防と対応 5) 居住環境のアセスメント・社会資源の活用			
7	発表	演習		
8	訪問時、礼節があり社会的マナーにのっとった行動ができる。 訪問看護場面における援助技術	講義・演習		
9	訪問場面の実際			
10	看護計画に基づく看護が実践できる	演習		
11	小児の在宅療養者への看護が理解できる 在宅継続のための健康危機管理 自立支援とQOLの維持向上のための在宅支援 家族支援	講義・GW		
12	精神疾患がある在宅療養者の看護が理解できる 在宅継続のための健康危機管理 自立支援とQOLの維持向上のための在宅支援 家族支援	講義・GW		
13	急性期にある療養者の看護が理解できる 緊急性と重症度のアセスメント 急性症状、感染症、状態に合わせた対応・調整	講義・GW		
14	終末期にある療養者の看護が理解できる 終末期緩和ケアの実際・看取りの援助 家族へのグリーフケア	講義・GW		
15	まとめ	講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】 在宅看護論 目標Ⅰ-2-A 目標Ⅱ-5-A~E 目標Ⅱ-6-A~D				
受講上の注意 事前課題を提示します。提出期限を厳守してください				評価方法 終講試験 課題・レポート
使用するテキスト				
参考文献				

シラバス

科目No SN-016 地域・在宅看護方法論IV	配当時期 3年前期	講義担当者 七種彩子・木戸信子	
	単位数 1単位	担当者実務経験	
時間数 30時間			
科目全体のねらい・授業目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に携わる職種とその役割・多職種との連携、ケアニーズについて理解することができる 2. 在宅看護における対象者やその家族に対する権利保障について考えることができる 3. 在宅看護での医療事故の予防と災害時の訪問看護師の役割について理解することができる 4. 在宅看護師の倫理について考えることができる 5. 多職種連携演習を通して、対象を取り巻く職種の役割と専門性を相互理解し、看護職としての専門性を考えることができる。 			
DPとの関連			
<p>DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP2: 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間形成をすることができる。</p> <p>DP3: 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。</p> <p>DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。</p> <p>DP6: 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。</p> <p>DP7: 専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	医療機関との入退院時の連携方法が理解できる 地域クリニカルパス 外来との連携 病棟との連携 退院支援部門との連携 多職種連携演習 オリエンテーション	講義・演習	
2	多職種連携演習 診察情報提供書や各職種の評価を読み、看護アセスメントをもとに看護問題を抽出する。また、看護計画の方向性を考える。	演習	
3	多職種連携演習 各職種の評価結果をもとに、共通目標を設定する。		
4	多職種連携演習 各職種のアプローチを検討する。	演習	柳川リハビリテーション学院 PT/OT/ST学科3年生と多職種連携演習を行う。(グループワーク等)
5	多職種連携演習 検討した各職種のアプローチ・看護計画を共有する。 模擬カンファレンスを視聴し、目標設定やアプローチ方法・看護計画について振り返る。		
6	多職種連携演習 検討した各職種のアプローチ・看護計画を共有する。 模擬カンファレンスを視聴し、目標設定やアプローチ方法・看護計画について振り返る。		
7	多職種連携演習のまとめ 課題の整理 医療機関との入退院時の連携方法が理解できる 地域クリニカルパス 診療所との連携 施設との入退所時の連携	講義・演習	
8	地域・在宅看護における権利保障の理解ができる 権利義護(アドボカシー)、成年後見制度 虐待防止 個人情報の保護と管理 サービス提供者の権利の保護	講義・演習	
9	療養者の意志やQOLの尊重するということが理解できる 事例検討	講義・演習	
10	訪問看護師の倫理について考えることができる 事例検討:	講義・演習	
11	在宅看護における安全と健康危機管理が理解できる 日常生活における安全管理(リスクマネジメント)	講義	
12	災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理が理解できる	講義・演習	
13	まとめ	講義	
14	まとめ	講義	
15	まとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 在宅看護論 目標 1-2-A~B、目標Ⅲ-8-A~B、目標Ⅲ-9-A~E、目標Ⅲ-10-A~C			
受講上の注意 関連職種連携ワーク(講義1回目~8回目)は柳川リハビリテーション学院PT/OT/ST学科 3年生と共同で学習する。		評価方法 筆記試験 50点 レポート 50点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院 よくわかる在宅看護 学研 看護学概論			
参考文献 訪問看護師の倫理 日本看護協会出版社			

シラバス

科目No	SN-026 老年看護学方法論Ⅲ	配当時期	3年前期	講義担当者	椎葉 幸
		単位数	1単位	担当者の実務経験	28年
		時間数	15時間		
科目全体のねらい・授業目標 老年看護における生活機能に着目した看護過程の技術を習得する。					
DPとの関連					
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。				
DP2	対象を中心として看護を提供するために、より良い人間関係を形成することができる。				
DP3	看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立って倫理に基づく看護を実践することができる。				
DP4	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断をすることができる。				
DP5	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践することができる。				
DP7	専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続けることができる。				
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	老年看護学の看護過程のポイントが理解できる				
2	事例を用いた看護過程の展開 高齢者の特徴をふまえたアセスメントができる。	演習			
3					
4	事例を用いた看護過程の展開 計画の発表と修正ができる。	発表			
5					
6	事例を用いた看護過程の展開 計画に基づいた看護を実践し評価できる。	演習			
7					
8	まとめ	確認テスト			
【看護師国家試験出題基準との関連】 老年看護学 目標Ⅰ、Ⅱ					
受講上の注意 老年看護学の知識を生かして主体的に演習に取り組んでください 事前課題を提示しますが、提出期限を厳守してください。				評価方法 終講試験 レポート 課題	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院					
参考文献					

シラバス

科目No SN-030 小児看護学方法論Ⅲ	配当時期	3年次	講義担当者 木戸 信子
	単位数	1単位	担当者の実務経験 看護師としての臨床経験13年 看護養成校教員経験21年
	時間数	15時間	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>小児期の成長・発達と疾患・健康障害、小児看護に必要な看護技術に関する基礎的知識を統合し、看護過程の展開を学ぶことで小児看護における看護の実践について理解を深める。</p> <p>1. 事例をもとに各発達段階や健康障害および経過に基づいた、対象に必要な看護を理解することができる。</p> <p>2. 対象の成長・発達、健康状態に応じた適切な援助を理解できる。</p> <p>3. 小児における遊びの意義を理解し、各発達段階に合わせた遊びを計画することができる。</p>			
DPとの関連			
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している		
DP4	科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている		
DP7	看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法が理解できる		
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	小児看護における看護過程の基本的考え方について理解する 1) 対象の成長発達から見たアセスメント 2) 病気や障害から見たアセスメント 3) 看護計画立案 4) 評価の視点	講義	
2			
3	小児に応じたレクリエーションの計画を立案できる。	講義・GW	
4	事例を用いた乳児期・幼児期・学童期・思春期の看護過程 1) アセスメント 2) 看護問題抽出 3) 看護計画立案 4) 実施(事例を用いた看護実践) 5) 評価	講義・GW・演習	
5			
6			
7			
8	まとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 小児看護学 目標Ⅰ～Ⅳ			
受講上の注意		評価方法 筆記試験 50% レポート 45% 授業態度 5%	
使用するテキスト			
系統看護講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 写真でわかる小児看護技術アドバンス 新訂第2版 インターメディカ			
参考文献			
発達段階からみた小児看護過程			

シラバス

科目No SN-034 母性看護学方法論Ⅲ	配当時期	3年次	講義担当者 實松順子
	単位数	1単位	
	時間数	30時間	担当者の実務経験 25年
科目全体のねらい・授業目標			
1. 周産期の母子の健康状態をアセスメントし、看護計画を立案できる。 2. 周産期における集団教育、個別教育に必要な知識を習得できる。			
DPとの関連			
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。		
DP2	人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。		
DP3	看護職としての責務を自覚し、倫理に基づき看護を実践することができる。		
DP4	科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。		
DP6	多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。		
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	母性看護における看護過程の考え方について理解できる。	講義	
2	妊娠期の看護過程	演習	
3	妊娠期の看護過程	演習	
4	分娩期の看護過程	演習	
5	分娩期の看護過程	演習	
6	産褥期の看護過程	演習	
7	産褥期の看護過程	演習	
8	新生児期の看護過程	演習	
9	新生児期の看護過程	演習	
10	看護計画の発表	発表	
11	母性看護における保健指導について	講義・演習	
12	集団保健指導案の計画	演習	
13	集団保健指導案の実施	演習	
14	産褥期の臨床判断	シミュレーション	
15			
【看護師国家試験出題基準との関連】 母性看護学 目標Ⅲ-4-A～D、目標Ⅲ-5-A～D、目標Ⅲ-6-A～D、目標Ⅲ-7-A～D 目標Ⅳ-8-B～C			
受講上の注意 グループワークは積極的に参加すること。 講義には実習要項も持参すること。			評価方法 課題の提出状況 筆記試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院			
参考文献 パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社			

分野	専門分野	科目番号		単位数	1
科目名	精神看護学方法論Ⅲ	授業形態	講義・演習	時間数	15
		開講時期	3年次前期	曜日・時限	不定期
担当教員	田中 雅美	実務経験			
学習目標	<p>目的 精神障害のある患者との治療的関係成立ができる。</p> <p>精神障害者の人権を守り、地域生活での生活を支えて行くための 施策を学ぶ。</p>				
授業の目標	<p>目標 1 精神看護における看護倫理について理解できる。</p> <p>2 精神科における安全管理について理解できる。</p> <p>3 精神障害を持つ患者とその家族に対して、看護過程の展開を行うための基本的な考え方を理解できる。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	学習課題	担当
	1	精神科看護師の役割と倫理	協同学習	随時、指示する	田中
	2	精神科看護における看護過程の基本的な考え方	講義・演習		
	3	看護過程の展開(情報収集とアセスメント)	演習		
	4	看護過程の展開(全体像の把握)			
	5	看護過程の展開(計画立案)			
	6	看護過程の展開(発表と修正)			
	7	看護過程の展開(発表と修正)			
	8	精神看護における安全管理	協同学習		
評価方法	<p>筆記試験:80点 課題の提出状況、、授業参加・態度:20点</p>				
テキスト	精神看護の基礎、精神看護の展開(医学書院)				
参考図書・参考文献など	随時提示する				
備考	精神看護学実習と関連した講義内容であるため実習要項を持参すること。				

シラバス

科目No	SN-041 看護の統合と実践Ⅲ(看護管理)	配当時期	3年次	講義担当者
		単位数	1単位	担当者の実務経験
		時間数	15時間	
科目全体のねらい・授業目標				
目的 看護における看護管理(マネジメント)の基本について理解を深める。				
目標				
1. 看護のマネジメントの概念を理解する。				
2. 医療・看護の質保証について理解する。				
3. 保健医療の機能分化と連携について理解する。				
4. 情報のマネジメント、医療安全のマネジメントの実際を理解する。				
5. 人材育成・活用の実際を理解する。				
6. 看護政策と行政について理解する。				
DPとの関連				
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。				
DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。				
DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を <u>実践</u> することができる。				
DP4 科学的根拠に基づいた看護の <u>実践</u> に必要な臨床判断能力が身についている。				
DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	看護管理学とはなにかを考え、看護におけるマネジメントの考え方について理解する。	講義	外部講師	
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能について理解する。	講義	外部講師	
3	看護職のキャリアマネジメントについて理解する。	講義	外部講師	
4	看護サービスのマネジメントについて理解する。	講義・GW	外部講師	
5			外部講師	
6			外部講師	
7	マネジメントに必要な知識と技術について理解する。	講義	外部講師	
8	看護を取り巻く諸制度について理解する。	講義	外部講師	
【看護師国家試験出題基準との関連】 看護の統合と実践 目標Ⅰ-1-A～G 目標Ⅳ-4-H				
受講上の注意			評価方法 筆記試験 受講態度	
使用するテキスト 系統別看護学講座 統合分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院				
参考文献 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 看護管理学 改訂第2版 南江堂 ナイチンゲールの看護覚え書 西東社				

シラバス

科目No	SN-042 看護の統合と実践Ⅳ(卒業研究)	配当時期	3年次	講義担当者	徳永 智恵美
		単位数	1単位	担当者の実務経験	
		時間数	30時間		
科目全体のねらい・授業目標					
目的 研究の基本的知識を基に、看護を多角的視点から深く考慮し、質の高い看護を追求する能力を養う。					
目標					
1. 看護研究の意義が理解できる。					
2. 研究のプロセスを踏まえ、研究論文を作成できる。					
3. 研究活動を通して、自己の看護観を深めることができる。					
4. 継続的に学習する姿勢の必要性を認識する。					
DPとの関連					
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。					
DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。					
DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。					
DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。					
DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。					
DP7 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法が理解できる。					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	ケーススタディの進め方	ゼミ方式による個人指導			
2	研究課題の決定 文献リサーチ・研究計画書				
3	看護実践のリフレクション				
4	文献検索及びクリティカルシンキング、論文作成				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12	ケーススタディまとめ・発表会の企画				
13	研究発表会(看護研究発表会6Hと合わせて実施)				
14					
15	論文修正				
受講上の注意				評価方法	
研究テーマに基づき、積極的に担当教員の指導を受けながら論文を作成する。				論文作成までの取り組み 論文提出	
使用するテキスト					
系統看護学講座 別巻 看護研究					
参考文献					

分野	専門分野	科目番号		単位数	2単位
科目名	在宅看護論実習Ⅲ	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
		開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金
担当教員	犬丸 小百合	実務経験			
授業の目的	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、その人らしく生活するための地域・在宅看護における知識・技術・態度を修得する。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養する人々とその家族を生活者としてとらえ、思いに寄り添い、コミュニケーションを図ることで総合的に理解することができる。 2. 地域で療養する人々の生活の場、障害の程度に応じ、個人の価値観や生活背景を尊重した看護の実践を理解することができる。 3. 地域における訪問看護ステーションの位置づけや機能およびほかの保健・医療・福祉メンバーとの連携の方法の必要性について理解することができる。 				
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当
	実習前 OR	実習オリエンテーション 1) 臨地実習について 2) 地域・在宅看護論実習Ⅲの位置づけ、目的・目標、方法 3) 実習についての学生心得 4) 実習記録について 5) カンファレンスについて 6) 週間予定表について 7) 通学方法・服装について 8) 訪問バッグ、その他必要物品の貸し出し 9) 実習場所の確認・連絡方法・注意事項について	※聴診器は各自持参する。		犬丸
	臨地実習	実習1日目 実習オリエンテーション・訪問看護 実習1週目～3週目 1) 週間スケジュールに基づき訪問看護に同行する(訪問看護・訪問リハビリ) 2) 利用者の訪問目的に沿って、看護師と共に一部援助を実施する 3) 訪問看護師の援助の根拠について、自分なりに考え記録に残す 4) 多職種、訪問診療やケアマネージャの役割、訪問先での利用者に関わる職種の役割・各職種の連携方法について理解する 5) 毎日、カンファレンスを行う。 6) 実習最終日にはまとめで発表	[臨地実習先] ・おおかわ訪問看護ステーション ・やながわ訪問看護ステーション ・訪問看護ステーション蒼空 ・大川三潁訪問看護ステーション		犬丸
	終了 後	実習のまとめ 1) 実習記録のまとめ・グループ討議 2) 実習の学びをグループ討議・発表会			
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤	地域・在宅看護論1	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践	地域・在宅看護論2	医学書院		
	よくわかる在宅看護 学研				
参考図書・参考文献など	DVD: 実践・訪問看護シリーズVol1～4 ビデオ: 在宅看護論Vol2～4				
備考	実習前までに、事前学習課題を済ませておくこと。				

分野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	2単位
科目名	成人看護学実習Ⅱ		授業形態	臨地実習	時間数	90時間
			開講時期	3年次前期及び後期	曜日・時限	
担当教員	科目責任者: 渡辺洋子	実務経験				
授業の目的	目的 成人各期にある対象を理解し、発達段階や健康レベルに応じた看護を科学的かつ創造的に実践でき基礎的能力を養う。					
授業の目標	目標 1. 手術をうける対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解することができる。 2. 手術後におこる生体反応を理解し、回復促進に向けた援助が理解できる。 3. 手術を受ける対象の特徴をふまえ、周術期における看護計画を立案し回復に向けた援助の実施・評価ができる。 4. 健康の危機的状況にある対象・家族が状況を理解し、状態に応じて早期回復に向けた支援ができる。 5. 成人期を取り巻く社会の変化に関心をもち、成人学習者として研究的態度を身につける。					
授業の内容と方法	授業内容			授業方法	学習課題	担当
	1. 実習オリエンテーション(実習前、学内にて) 1) 成人看護学実習Ⅰ～Ⅱの目的・目標 2) 実習配置および実習施設・実習指導者の紹介 3) 実習日程 4) 具体的な方法および注意点 5) 実習前学習課題提示 6) 実習態度および施設使用時の注意点 2. 実習実施 1) 対象の理解 手術の特徴と対象に与える影響をふまえた周手術期にある対象の理解。 急激な健康レベルの低下をきたした対象の理解。 2) 看護過程の展開 周手術期にある対象の術前・術中・術後の安全安楽な援助を行う。 3) 看護計画、評価のまとめの発表 4) 患者要約および実習の反省・まとめ 3. 実習のまとめ(実習終了後、学内にて) 1) 個人の振り返り 2) 健康レベルに沿ったまとめ			高木病院D7病棟、手術室、ICUでの実習	実習に関する学習と実習記録	渡辺
	【終了後レポート】 成人看護学実習Ⅱの実習記録の提出					
評価方法	成人看護学実習Ⅱの実習評価表に基づき総合的に評価する。					
テキスト	系統看護学講座 成人看護学①～⑯ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論 医学書院					
参考図書・参考文献など	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 看護技術関連のテキストおよびサブテキスト全般 看護診断ハンドブック 医学書院 ※その他必要時指示する。					
備考	★自己の体調をしっかりと管理し、実習に臨む。					

分野	専門分分野	科目番号		単位数	1単位
科目名	老年看護学実習Ⅱ	授業形態	臨地実習	時間数	45時間
		開講時期	3年通年	曜日・時限	月～金
担当教員	前島 文子 他 *科目責任:前島 文子	実務経験	36年		
授業の目的	<p>目的 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と生活の場を理解し、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する。</p>				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面から総合的に捉えることができる。 2. 加齢に伴う変化が日常生活に及ぼす影響や障害を理解することができる。 3. 高齢者の生活と健康との関連を理解し、対象者の特徴をふまえた日常生活の援助ができる。 4. 老年期にある対象者の人格を尊重し、健康の維持に向けた援助ができる。 5. 高齢社会における保健医療福祉システムについて考えることができる。 6. 介護老人保健施設の概要を理解し、施設における看護の役割を理解できる。 				
授業の内容と方法	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	<p>生活機能の観点からアセスメントすることができる。 対象者が望む生活とは何かを重視し、もてる力に着眼することができる</p> <p>対象者が望む生活や状態像を考えることができる。</p> <p>対象者の疾病と老化の関連性について理解できる。</p> <p>対象者の疾病と生活習慣の関連性について理解できる。</p> <p>対象者の生活背景・習慣を考慮し、健康障害を予防の方法を考えることができる。</p> <p>実践した結果から対象者の反応を客観的に観察することができる。</p> <p>対象の残存機能を生かした援助の工夫ができる。</p>	実習要項参照		前島 他	
	<p>【終了後レポート】 指定された実習記録の提出</p>				
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価				
テキスト					
参考図書・参考文献など	必要時、指示				
備 考					

分野	専門分野	科目番号		単位数	2単位
科目名	老年看護学実習Ⅲ	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
		開講時期	3年通年	曜日・時限	月～金
担当教員	前島 文子 他 *科目責任:前島 文子	実務経験	36年		
授業の目的	<p>目的 高齢者に起こりやすい健康障害と関連する諸問題について理解し、人格を尊重した看護が展開できる基礎的技術を習得する。</p>				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象者の老化と健康障害の関連が理解できる。 2. 老年期の健康障害の特徴を理解し、健康上の問題について総合的に把握できる。 3. 老年期にある対象者の生きてきた過程、日常生活行動・健康状況を理解し、生活背景・生活習慣との関連から健康の維持・増進、健康障害の予防のための援助ができる。 4. 診断・治療が老年者の生体に及ぼす影響をふまえ、対象者への基本的看護を理解する。 5. 看護の実践を通して対象者に与える影響について考えることができる。 6. 人生の終末期にある対象者のQOLを高めるための援助ができる。 7. 家族援助の必要性を理解し、老年者のサポートシステムを考えることができる。 8. 老年期にある対象者の生きてきた過程や価値観を理解し尊重した態度で接することができる。 				
授業の内容と方法	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	<p>生活機能の観点からアセスメントすることができる。</p> <p>対象者が望む生活とは何かを重視し、もてる力に着眼することができる</p> <p>対象者が望む生活や状態像見据え目標志向型思考で看護の展開ができる</p> <p>対象者の疾病と生活習慣の関連性について理解できる。</p> <p>疾病が対象者の生理機能に及ぼす影響について理解できる。</p> <p>対象者の主要症状に対する看護が理解できる。</p> <p>実践した結果から対象者の反応を客観的に観察することができる。</p> <p>その人らしい生活が送れるような援助ができる。</p> <p>苦痛緩和に向けた援助ができる。</p> <p>悪化を防ぐ援助ができる。</p> <p>自立・退院に向けての援助ができる。</p>	実習要項参照		前島 他	
	<p>【終了後レポート】</p> <p>指定された実習記録の提出</p>				
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価				
テキスト					
参考図書・参考文献など	必要時、指示				
備 考					

分野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	2単位
科目名	小児看護学実習	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
		開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金
担当教員	木戸信子 他 科目責任:木戸信子	実務経験	木戸:35年		
授業の目的	目的 小児各期の特徴を理解し、健やかな成長・発達への援助及び健康問題を持つ小児と家族に対する看護を実践できる基礎的能力を養う。				
授業の目標	目標 1 小児の成長・発達の特報を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2 小児の成長・発達段階、健康レベルに応じてコミュニケーションを図ることができる。 3 小児の個別的な成長・発達を見守り、小児を一人の人として尊重する。 4 健康問題を持つ小児と家族に対して、科学的根拠に基づいて看護が実践できる。 5 小児の成長・発達段階、健康レベルに応じた日常生活への援助が安全・安楽に実践できる。 6 小児の成長・発達を促すための教育的関わりが、仲間と協働し実践できる。 7 小児の健やかな成長・発達を促し、小児の最善の利益を守るための看護について考えることができる。				
授業の内容と方法	回	授 業 内 容		学習課題	担当
	1 週 間	保育所(認定こども園)実習 ① 保育所(認定こども園)の日課に沿って、行動する。 ② 担当クラスの発達段階の特徴を理解する。 ③ 各クラスの保育士に指導を受けながら子どもたちに関わる。 ④ 実習2日目にレクリエーションを実施する。 ⑤ 担当クラスの発達段階の特徴を発表し、共有する。		グループで園児を対象にしたレクリエーションを企画・実践	木戸 他
		小児科病院実習 ① 小児科外来を受診する小児とその家族に対する看護を見学(一部実施)し、看護の実際を学ぶ。 ② 病気で入院する小児に対する看護過程を展開し、必要な看護を導く。その後、援助を行い、評価する。 ③ 柳川療育センターでの外来での様子を見学し、在宅で暮らす重症心身障害児(者)の地域医療の中での連携について学ぶ。			
	1 週 間	重症心身障害児(療育センター実習) ① 入所している児を受け持ち、日常生活の援助を行う。 ② 療育センターで生活する児と遊び、楽しむ。 ③ 実習3日目にレクリエーションを実施する。 ④ 児の細かい反応を観察し、その児に適した方法で援助を実践する。		グループで実習フロアの入所者を対象にしたレクリエーションを企画・実践	木戸 他
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価する				
テキスト	系統看護学講座 専門 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学2 小児臨床看護学各論 実習要項				
参考図書・参考文献など	写真でわかる小児看護技術 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア 発達段階からみた小児看護過程 その他小児疾患・看護診断に関する文献				
備 考	1週間ずつ異なる施設での実習となるため、健康管理を十分に行い、欠席することのないように注意すること				

分野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	2単位
科目名	母性看護学実習		授業形態	臨地実習	時間数	90時間
			開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金
担当教員	實松 順子	実務経験	24年			
授業の目的	目的: 周産期における対象とその家族の健康上の課題を総合的に把握し、その解決に向けた看護を実践する基礎的能力を養う。					
授業の目標	目標 ①周産期の対象とその家族の人権を尊重し、倫理的配慮ができる。 ②周産期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 ③妊産褥婦および新生児とその家族に対して、看護を科学的根拠に基づいて過程的に展開できる。 ④母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉・行政の諸機関や関係する法律について理解できる。 ⑤母性に関連した諸問題に関心を持ち、主体的創造的に学習し、研究的態度を身につける。					
授業の内容と方法	回	授業内容・授業方法			学習課題	担当
	1週間	1) 外来: 妊娠各期の看護の実際を学ぶ 妊婦健康診査の実施、個別保健指導見学 不妊治療を受ける対象の理解—こころのらくがき帳				實松
	1週間	1) 病棟: 産褥期の看護の実際を学ぶ 分娩各期の看護場面の見学、一部実施 褥婦の看護過程の展開(計画・実施・評価発表)、子宮復古や乳房の観察、看護場面の見学・実施 褥婦を受持ち、看護を展開する 対象がいない場合は、過去の事例を得て、展開する				
		1) 病棟: 新生児の看護の実際を学ぶ 新生児の看護過程の展開(計画立案まで 発表不要) ドライテクニックおよび沐浴の実施 授乳や看護場面の見学・実施 新生児を受持ち、看護を展開する 対象がいない場合は、過去の事例を得て、展開する				
1週間	1) 福岡山王病院周産期センターの見学 2) 集団保健指導の発表(計画は高木病院2週間実習中に立案しておく) 3) 実習のまとめ					
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価表に沿って総合的に評価する					
テキスト	系統看護学講座 母性看護学(1)母性看護学概論 , 母性看護学(2)母性看護学各論					
参考図書・参考文献など	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社					
備考						

分野	専門分野Ⅱ	科目番号		単位数	2単位
科目名	精神看護学実習	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
		開講時期	3年次通年	曜日・時限	月～金
担当教員	田中雅美 他 科目責任:田中雅美	実務経験	田中:27年1月		
授業の目的	目的 精神的諸問題を持つ対象を総合的に理解し、対象と家族に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。				
授業の目標	目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 心の発達と心の健康の概念を基に、対象を総合的に理解できる。 2 自己理解を深め、対象に受容・共感的態度で接し、人間関係を築くことができる。 3 精神的諸問題対象および家族の人権・価値観を尊重し、倫理的配慮ができる。 4 対象の健康的な部分に眼を向け、心の健康回復のための援助を安全・安楽に実践できる。 5 精神的諸問題を持つ対象および家族の応じて科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 6 対象の治療効果を高めるために医療チームの一員として協働できる。 7 精神的諸問題を持つ対象および家族を取り巻く社会背景に関心を持ち、主体的・創造的に学習し研究的態度を身につける。 				
授業の内容と方法	授 業 内 容	実習場所	担 当		
	<p>※ 精神疾患を持つ患者を受持たせていただき、看護を実践する。</p> <p>※ 集団療法や作業療法、レクリエーション・ミーティングなどに参加し、精神疾患を持つ</p> <p>【実習1～3週目】</p> <p>病棟オリエンテーションを受け、精神疾患を持つ対象への関わり方や基本姿勢を学ぶ。</p> <p>看護師や医師、OTなどの対象への関わり方を見学する。</p> <p>精神科病棟に入院している対象を受け持ち、コミュニケーションをとる。</p> <p>対象が大切にしているもの(こと)を把握する</p> <p>人権擁護と安全の確保について学ぶ。</p> <p>傾聴・受容・共感的態度での接し方を学ぶ</p> <p>対人関係において、自分の言動が相手に及ぼす影響がわかる。</p> <p>対人関係における自己の傾向、接し方について分析できる。</p> <p>受持った患者の健康な部分を引き出す関わりを学ぶ。</p> <p>精神疾患を持つ患者の安全を確保するための施設、環境を学ぶ。</p> <p>精神科病棟における看護師の役割がわかる。</p> <p>精神医療の現状や障害者への差別・偏見のない社会づくりについて考える。</p> <p>【実習終了後】</p> <p>各グループで学びの共有を行い、実習の成果をまとめる。</p> <p>詳細は、実習要項を参照</p>	筑水会病院 のぞえ総合 心療病院 甲斐病院	田中		
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等を実習評価表に沿って総合的に評価する				
テキスト	精神看護の基礎、精神看護の展開(医学書院)				
参考図書・文献など					
備 考					

分野	統合分野	科目番号		単位数	2単位
科目名	統合実習	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
		開講時期	3年次後期	曜日・時限	月～金
担当教員	七種彩子 他 *科目責任:七種彩子	実務経験			
授業の目的 授業の目標	<p>目的:既習の知識・技術・態度を用いて、臨床実務に即したチーム医療、看護管理、医療安全を考慮した看護実践能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職業人としての倫理に基づき、対象の人権および価値観を尊重した行動ができる。 2. 複数の対象に対する看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 3. 病院における看護管理および、医療安全の実際を理解できる。 4. 看護チームのメンバーおよびチームリーダーの役割を理解できる。 5. 夜間帯における看護の役割を理解し、必要な看護が実践できる。 6. 継続して医療を必要とする人々の特徴および継続看護の実際を理解できる。 7. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。 				
授業の内容 と方法	授業内容				担当
	<p>[実習前]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションで実習目的と目標・実習方法を理解する。 2. プロフィールを作成することで、実習目標と自己の課題を明確にする。 <p>[実習方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部長のオリエンテーションを受け、病院全体の管理等について理解する。 2. 病棟オリエンテーションを受け、病棟の特徴・病棟の構造などを理解する。 3. 複数の患者(3人)を受け持ち、優先順位と時間管理を考慮しながら援助を行う。 4. チームリーダーと行動を共にし、チームリーダーの実施内容を知る。また、チームリーダーの役割を理解すると共にチームメンバーの役割も理解する。 5. 病棟師長から説明を聞き、行動を共にし見学することで、看護管理の実際を理解する。 6. 夜間帯の看護師業務と患者ケアを見学・一部実施し、夜間帯の看護の役割を理解する。 7. 救急外来で救急患者への医療の実際を見学し、また、指導者より説明を受け、看護の役割を理解する。 8. 透析室で社会生活を送りながら透析療法を受ける患者の看護を見学し、看護の役割を理解する。 9. 実習を振り返り、自己の看護観と課題を明確にする。 				実習配置表により、担当教員が指導に入る
評価方法	実習目標到達及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価する				
テキスト					
参考図書・参考文献など	実習要項を参考にし、事前学習をして実習に臨むこと。また、複数患者の疾患や症状等については、自ら文献を用い学習すること。				
備考	*実習配置表を確認し、自分の実習スケジュールおよびグループメンバーのスケジュールを把握しておく。				